

■園部秀雄 そのべひでお 初 の 日 刊 新 聞 1870 = 3歳	薙刀術師範。無敵の女性武道家として名声を得、諸女子校で教授、薙刀術の世界をリードし続けた。 陸奥国玉造郡一栗村で、仙台藩馬廻役日下陽三郎の六女に生まれる。陽三郎の祖母は林子平の姪にあたる。幼名たりた。両親が子たくさんで、もう足りたという嘆きから名づけたという。
明治6年政変 1873 = 3歳	幼い頃から父親の馬を勝手に乗り回すほど活発な少女であったが、 家が貧しかったため、
沖縄県編入 1879 = 9歳	
明治14年政変 1881 = 11歳 新 体 詩 抄 1882 = 12歳	古川の温泉に奉公に出、
帝国大学始 1886 = 16歳	古川で興行された元講武所師範佐竹鑑柳斎夫妻の真剣薙刀興行を見て深い感銘をうけ、父の激しい反対を押し切って、鑑柳斎夫人佐竹茂雄に入門。撃剣興行をしながら、めきめきと上達し、名だたる剣術家・槍術家と数百回に及ぶ異種試合を行い、総なめにしたといわれ、
初の対等条約 1888 = 18歳 帝国憲法発布 1889 = 19歳 帝国議会始 1890 = 20歳 大津事件 1891 = 21歳	*父との約束の期限には、直心影流の印可をとり、秀雄と改名。 一座の剣士吉岡五三郎と結婚し、1女を生む。 この間、唯一度、契り木という特殊武器を用いた敵に敗れている。 夫が天然痘で急逝したため、娘を千葉県の旅館の養女に出し、 佐竹鑑柳斎一座も解散したため、師佐竹義文のもとで暮らすうち、 申し出のあった神戸光武館主園部正利と再婚し、 本所回向院境内での撃剣興行を最後に、以降、大日本武徳会で活動。 夫とともに{光武館}で武道教育にあたり、姫路師範学校や大阪女子師範学校で薙刀教師を務める。 *第4回武徳祭大演武会に唯一女性武道家として出場。大日本武徳会総裁小松宮彰仁親王の目に留まり、親王の指名で、剣術家の渡辺昇と異種試合を行い圧倒。渡辺は幕末期に練兵館の塾頭を務め、京都では何度も人を斬り新選組をも恐れさせた剣豪であったが、秀雄の薙刀さばきに圧倒され、試合を途中で放棄した。 かつての師佐竹義文が死去。 第6回武徳祭大演武会で、渡辺昇の秘蔵弟子堀田捨次郎と戦い、師の仇を討たれる。予想外の秀雄の敗北に、拍手が禁じられている武徳殿に喝采が鳴り止まなかったという。
白馬会 1896 = 26歳 八幡製鉄始 1897 = 27歳	
Bushidou 1899 = 29歳	*第4回武徳祭大演武会に唯一女性武道家として出場。大日本武徳会総裁小松宮彰仁親王の目に留まり、親王の指名で、剣術家の渡辺昇と異種試合を行い圧倒。渡辺は幕末期に練兵館の塾頭を務め、京都では何度も人を斬り新選組をも恐れさせた剣豪であったが、秀雄の薙刀さばきに圧倒され、試合を途中で放棄した。
ピアノ/国産化 1900 = 30歳 田中正造直訴 1901 = 31歳	
日露戦争終 1905 = 35歳 満鉄発足 1906 = 36歳	
明治天皇没 1912 = 42歳	
21ヶ条要求 1915 = 45歳	
本格政党内閣 1918 = 48歳	剣道家の高野佐三郎が東京神田今川小路に修道学院を開き、その落成記念大会に招かれたことが、東京に進出する契機となり、女子学習院常盤会以後、東京成蹊女学校・実践女学校・女子体操学校・女子商業学校・二階堂塾などで教授、
原敬首相暗殺 1921 = 51歳	日本有数の流派を形成して行く。
護憲三派圧勝 1924 = 54歳	
円本時代始 1926 = 56歳	大日本武徳会から最高位たる薙刀術範士の称号をうける。
海軍軍縮条約 1930 = 60歳 満州事変 1931 = 61歳	宮中済寧館台覧試合で山内禎子と共に直心影流薙刀術の形を演武。
国際連盟脱退 1933 = 63歳	
日中戦争始 1937 = 67歳	*直心影流薙刀術道場{修徳館}を設立。 薙刀の稽古にばかりに集中し、家事を疎かにしてはならないと、弟子に“武道の生活化”を説き、自身どれほど忙しくても毎日の掃除は欠かさず、雑巾はいつもおろしたての様に美しい物を使っていたという。
日米開戦 1941 = 71歳 1942 = 72歳	
敗戦 1945 = 75歳	戦後も、 範士として活躍し、全日本薙刀連盟会長をつとめ、
独立回復 1951 = 81歳 55年体制始 1955 = 85歳 全国総合計画 1962 = 92歳 TV宇宙中継始 1963 = 93歳	この年の日光東照宮での剣道大会など、なお演武を続けるが、 紫綬褒章を受章して、 没した。
インターネットWikipediaほか、	